

【ドローン航路】

・電波通信環境の整備

輸配送での実用化に向けて不可欠なのは、電波不感地帯の解消による上空環境の整備。特に、中山間地には今でも電波不感地帯が多数存在。ドローンを活用した輸配送事業のサステナビリティ強化の観点、及び受益者となる地域住民、集落等地域コミュニティの維持の観点からも、国には、電波不感地帯のない安定した通信環境の整備をぜひお願いしたい。

【自動運転支援道】

・一般道も含めた実証

自動運転車両の事業性の検証・評価に際しては、高速道路等のインフラの高度化はもちろんのこと、一般道も含めた対応が不可欠。このことは人流サービスにおいても、物流サービスにおいても同様。

たとえば、中山間地の交通量の少ない地域を実証フィールドとして、自動運転車両とドローンや配送ロボットを組み合わせた輸配送パッケージ（次頁図1）の実証・検証も可能。ぜひご検討いただきたい。



【モビリティハブ】

幹線路を結ぶ都市レベルでの拠点であるターミナル2.0、ラストワンマイルへの拠点となるコミュニティセンター2.0の整備は、いずれも重要。新たな地域の拠点としての可能性を秘めている。「まち」と「まち」、地域と地域をつなぐ拠点としてモビリティハブを整備することは、デジタル時代の地域の賑わいや活性化の実現に資する重要な要素。

モビリティ・ハブの役割や条件不利地域等での整備のあり方を含めた官民の役割について、検討・整理が必要。